

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス たしまっこ			
○保護者評価実施期間	6年 11月 11日		～	6年 11月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15世帯	(回答者数)	15世帯
○従業者評価実施期間	6年 11月 11日		～	6年 11月 18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	6年 2月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育	障害児が生活能力に必要なことを身につけていくために、集団ではなく主に1人1人に合った個別療育をしている。主に、生活・健康の場面では、身辺自立を主に、運動の場面では園庭を使ってルールを伴う遊び、SSTでは社会生活を送る上でのコミュニケーションの取り方、制作では指先に意識しながら療育をおこなっている。	個別課題に集中できるよう、またその日の状況等によっては、難しい課題ばかりではなく、少し易しい課題だったり、その子が得意なものも入れたりしながら、イヤにならないよう、また、「できた!」という成功体験を積んでいくようにしている。
2	言語療育	言語聴覚士による個別療育を月に1回おこなっている。その際に、今困っていることや、現状どれくらいの言葉を知っているか、コミュニケーションの取り方など、子どもだけでなく保護者にもアドバイスしてもらえる。	1時間、事前予約制になっているので、受講希望の方には利用可能な日にちを早めに伝えるようにしている。
3	異年齢との関わり	本体が保育園なので、保育園児と関わるが多々ある。また、学童保育の子たちもいるので、いろいろな年齢の子どもたちと様々なあそびの中で、コミュニケーションを取ることができる。	なるべく晴れの日には戸外活動に参加するようにし、関わりを多くするようにしている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用希望者について	まず、高学年から利用したいという子が多いのと、卒業したくない子というが多く、新規での利用が難しい状態。	モニタリング時に、保護者と卒業時期について会議を重ね、高学年及び友達同士の関わりでの課題になった時点で、家庭内での経験へ移行していくこととする。
2	利用人数	毎月キャンセル待ち状態となっている。利用希望者全てを入れてあげたい気持ちはあるが、人数は守っていかなければならないので、検討していかなければならないところ。また、直前キャンセルも最近多いので、早めに連絡を頂ければキャンセル待ちの利用者にも案内できたのではないかと考える。	キャンセル待ちの利用者にもできるだけ多く案内できるよう、今一度、学校行事や私用などをきちんと確認した上で、利用希望日を入れてもらうよう伝える。
3	研修について	主に基礎の研修が多いので、中間職員向けのキャリアアップ研修が少なく、あまり参加できていない状態。	ホームページなどで県外や、県指定の研修をさらに調べてみるようにする。また、専門コース別研修はあるが、児発管以外も参加できるキャリアアップの研修も見つけて積極敵に参加していきたい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	放課後等デイサービス たしまっこ
------	------------------

公表日 2025年3月24日

利用児童数 計15世帯 回収数 15枚

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15					県の基準値に添って、スペースを確保しております。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	13			2		県の基準値に添って配置しております。児発管1名、児童指導員2名、保育士1名で支援を行っております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15					施設内はバリアフリーになっており、車椅子用トイレも完備しております。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	15					毎日清掃は行っており、個人に合わせた環境設定を行っております。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15					1人1人の特性に応じた療育を行い、意欲や自信に繋がるよう努めてまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15					個人に応じた支援を提供しています。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15					相談支援員さんの個別支援計画に基づき、保護者様に半年に1度ニーズをお伺いしながら作成しております。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14			1		県から指定されている個別支援計画に基づき、本人や保護者様の意向をお聞きした上で計画を立てております。またその意向をもとに支援内容も個々に応じて設定しております。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15					個別支援計画に沿って、支援を行っております。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14			1		1人1人の特性に応じた療育を行い、意欲や自信に繋がるよう努めてまいります。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	12			3		保育園児や学童保育の子どもたちとは毎日、地域の子どもたちとはお楽しみ会などを通して交流しております。
保護者 への 説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15					見学・ご契約時に出来るだけ分かりやすく、ご説明等取り組んでまいります。また、ワーク内容につきましては連絡帳に詳しく記載しております。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	15					保護者様からのご意見をお聞きし、計画を立てて、それをもとにお話しさせていただいております。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12			3		3月に放デイの卒業生とその保護者を招き、茶話会を開催しました。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	14			1		その日の活動内容や出来事、気になる事など、できるだけ詳しくお伝えするようにしています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15					当事業所内において、専門の相談委員との育児相談や、言語療育を月1回行っております。予約制です。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	15					子どもや保護者様、ひとりひとりの思いに寄り添う支援を心がけています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8		2	5	・特に要望なし ・丁度利用曜日が違うため、参加できない	一昨年は熊本市博物館にてお楽しみ会を開催し、子どもや保護者との交流会を行いました。今年度は3月に茶話会を行いました。

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14			1		必要に応じて、個室で相談等も行っております。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15					連絡帳や、お迎え時にお伝えしたり、個別に電話でのご相談や面談等も行っております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	15					お便りを毎月配布し、活動内容なども発信しております。自己評価は1年に1回行い、結果につきましては公表しております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15					個人情報には鍵付きのキャビネットにて保管しております。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13			2		マニュアルは策定しており、いつでも見ていただけるようになっております。また年に数回、保育園と一緒に様々な訓練等行っております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13			2		月に1回、避難訓練を行っております。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための、計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13			2		マニュアル等に添って訓練を行い、安全確保に努めております。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13			2		些細な怪我でもすぐに対応するようにしております。事業所だけでなく、園本体の職員にも周知しております。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	15				・いつも嬉しそうです	安心して通所していただけるよう、全職員で取り組んでまいります。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	13	1		1		お子様1人1人に配慮し、通所を楽しんでもらえるよう、全職員で取り組んでまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	15				・ありがとうございます	利用者様皆様に満足していただけるよう努力してまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス たしまっこ		公表日		2025年 3月 24日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用定員に対して、適切なスペースで学習できている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		児発管1名、児童指導員2名、保育士1名で支援を行っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		建物内は、すべてバリアフリーであり、車椅子用のトイレも完備している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		常に清掃しており、週に1回は室内環境点検も実施している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		療育の部屋とは別に、個室もその時の状況によって利用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		全職員で取り組んでいる。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年実施し、保護者の意思等十分に検討しながら業務改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		その都度話し合いを設け、業務改善に日々務めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	今後、外部評価を行おうと思っている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		いろいろな研修へ積極的に参加し、その研修内容を職員にも周知しながら、支援向上へとつなげている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムは作成しており、ホームページに公表もしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		子どもと保護者のニーズや課題に沿って、県から指定されている個別支援計画に基づいて作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		全職員で会議を行い、その子にとっての最善とはなにかを常に考慮し、共通理解したのちに作成するようにしている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		1人1人の特性に応じた療育を行い、意欲や自信に繋がるよう、計画に沿った支援ができるよう努めている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		個別支援計画を元にPDCAに伴い、半期に一回評価反省につなげている。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		定期的に会議を行いながら、本人の意思や保護者の意思にそって、今何が必要なのかを考慮した上で支援内容を設定している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		個々に合った療育内容を考え、チームで案を出しつつ、よりよい支援が行えるよう努めている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		個々の発達に応じた内容の療育を日々行っている。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		主に個別だが、状況に応じて集団活動も行いつつ、その場に合った支援をするようにしている。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		なるべく事前に打ち合わせを行うようにしており、療育担当者も固定しないよう配慮している。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		その日支援した内容や、以前した内容と比べてどうだったのか、また、保護者と話した内容なども職員間で共有している。		

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録はもちろん、誰が見ても内容が分かるように細かく記載している。それをもとに、改善するよう日々努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		相談支援員と保護者の個別支援計画をもとにモニタリングし、計画に見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせず支援を行っているか。	○		放課後等デイサービスガイドラインにそって、支援内容を考え、実行している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		その日の調子に合わせて、どのくらいできるか、どの問題までならできるかなど本人と話しながら決めるようにしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参加しているか。	○		担当者会議は、主に母・放デイ職員・相談支援員・必要であれば学校の担任・児相担当者など交えて開催している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		園本体と同様、医療機関との連携は常に取れるようにしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		毎週金曜日は時間割を頂いたり、急な予定変更等も学校から連絡を頂き、きちんと対応できる様にしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		本体が保育園の為、気になる子や療育に通っている子などは午前中の時間に訪問し、情報を共有するようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		相談支援員さんを通し、現状や支援内容等の情報提供をおこなっている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		研修等には進んで参加し、他事業所等とはいつでも連絡が取れる様にしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		本体の学童保育と毎日交流しており、イベントや行事等も一緒に行うようにしている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		子ども部会には毎回参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		事業所にお迎えをお願いしているので、その際毎回対面にて、保護者と活動内容や課題などについて共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		必要に応じて、個室で話しをしている。また、今年は3月に茶話会を設けて、進路についての情報提供を行った。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時にそれぞれ詳しく説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		何に困っているのか？本児の意向と保護者の意向を聞き、すり合わせた上でどうしていくかを考える機会は常に設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画をもとに、それを提示しながら説明した後、同意を得るようにしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		その都度、こうしてみては？と手段を伝え、それが上手くいかないのならまた別の手段を試してみるよう助言している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○		保護者や兄弟も一緒に参加できるレクレーションやイベント、また卒業生を招いての茶話会なども実施している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情マニュアルにそって対応するようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		お便り以外に、外部から送られてくる会報やイベント、いろいろな行事等を発信するようにしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		使用する時以外は、鍵付きのキャビネットに直して保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子ども同様、分かりにくいところは、親ごとに手立てを変えて1つずつ伝えるように配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		保育園の行事や、保育園主体の地域行事にも参加するようにしている。	
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		防災訓練は毎月、その他の訓練はその都度行うようにしている。	

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		保育園の避難訓練や救急法研修などに参加している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		てんかん発作のある利用者はいないが、薬を服用している子はいるので、その都度状況は確認するようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保育園の給食室で対応するようにしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全を確保したうえで、支援を行うようにしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		避難訓練やその他の訓練を行った場合、連絡ノートに記載したり、お迎え時に伝えるようにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットマニュアルにそって、その都度対応するようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待研修は必ず受けるようにしており、その後全職員に周知するようにしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在、身体拘束を行うような子は利用していないが、研修は受けるようにしている。	